

TTC ゆった〜り山行実施記録表 2017年10月25日 報告者:Y.M

山行名	奥蓼科 横谷溪谷紅葉ハイキング [1550m/長野県]		
実施日	平成30年10月21日(日) 日帰 マイクロバス利用		
天候/参加人員	天候:終日快晴、レベル:★☆☆ 参加者:申込16名/実施17名(男8名/女9名)		
パーティスタッフ	省略		
参加メンバ	省略		
費用 一人:4,400円 カンパ金:430円	約4,400円(交通費¥3,888+入浴料金¥487+カンパ金¥25) マイクロバスレンタル料¥29,268、燃料代[128x(395+50)/5]¥11,392、高速料金(相模湖-諏訪南中型往復@3,720x2)¥7,440、ドライバー謝礼:¥18,000/交通費計:66,100、石遊の湯入浴料金(11枚綴り5,150+@520x6)¥8,270/一人¥487/費用総額¥74,370/17人⇒一人当たり¥4,375 集金(@4,400x17)¥74,800-費用合計¥74,370=残金¥430(山行カンパ金会計に繰り入れ)		
	歩行時間	休憩時間	行動時間
ガイドブック	1:50	—	—
計画	2:05	1:45	3:50
実行*	1:44	1:14	2:58
歩行距離:約4km 累積標高差:登り~100m/下り~400m 歩行数:約9,500歩			
実行コースタイム記録			
R412号	中央高速道	湯みち街道(体操/トイレ)	0:03 0:15
旧ヨカチ前=(林/及川中原/荻野新宿/鳶尾入口)=相模湖IC==談合坂SA==諏訪南IC==明治温泉入口——御射鹿池——			
6:15	6:24	6:28 6:31 6:35	7:20 7:29/7:45
	0:29	0:13	0:05 (昼食) 0:13 0:08 (トイレ) 0:08 0:10 (そば遊楽庵)
—おしどり隠の滝——王滝展望台——一枚岩——屏風岩——霧降の滝——横谷温泉旅館——乙女滝——蓼科中央高原P=			
10:10/10:15	10:44/10:50	11:03/11:08 11:13/11:43 11:56/11:58	12:06/12:17 12:25/12:28 12:38/12:43
(温泉入浴)	(野菜・果物買物)	中央高速道	R412号線
石遊の湯==蓼科自由農園原村==諏訪南IC==談合坂SA==相模湖IC==(市内各所経由)=本厚木旧ヨカチ前			
12:53/13:48	14:04/14:30	14:40 16:53/17:14	18:25 19:31
コースの概要、特記事項、反省事項等			
<p>奥蓼科の横谷溪谷は、長野県有数の溪谷美と紅葉の名所として知られ、溪谷沿いに遊歩道が整備され、特に乙女滝はTVドラマに度々登場する有名な滝。登山中心のTTCでは、これまで訪れる機会が無く、今回紅葉最盛期初訪問となった。</p> <p>17名と久々に賑やかなマイクロバスに乗り、車窓から裾野まで雪を被った富士山、頂稜部を雪化粧した北岳・間ノ岳、荒川岳・赤石岳等の峰々を眺め、青空に並び立つ八ヶ岳に向かって、湯みち街道を走り、4時間余りを要して、標高1550mの明治温泉入口駐車場に到着。すぐ傍の東山魁夷の代表作「緑響く」(S47作)のモチーフとなった池として有名な御射鹿池の景色を觀賞してから、横谷溪谷ハイキングコースのスタート地点となる明治温泉に下った。溪谷左岸に創業120年のレトロな旅館の建物があり、すぐ傍に溪谷最上流のおしどり隠しの滝がある。落差約15mを7段で優雅に流れ落ちる滑滝で、紅葉に染まる溪谷美をカメラに収めようとカメラを構えた老若男女で大賑わいだった。</p> <p>滝下流を岩伝いに右岸に渡り、紅葉に染まる樹林帯の急な登山道を20分ほど高巻きして、谷間に響く轟音に導かれて山道を進むと、程なく溪谷最大の王滝の展望台に到着する。王滝は上段25m/下段15mの2段の滝で、柱状節理の岩壁の間の赤褐色の岩の上を豪快に流れ落ちる見事な滝だ。この渋川中流域の見事な溪谷美は横谷溶岩流と糸萱火砕流によって造形されており、とくに滝は、基本的に上流に頑丈な溶岩帯、下流に脆弱な火砕流堆積物の境界に誕生したという。王滝の下流には、長い一枚岩の急流や柱状節理の断崖がそそり立つ屏風岩、マイナスイオン濃度が2万個/CCもあるという霧降の滝等の名勝が続き、幅広になった遊歩道に優しい木漏れ陽が射す気持ちよい溪谷の紅葉ハイキングを楽しんだ。晴天なのに気温8~9℃と肌寒く、溪谷の流れに近づくと、更に寒さを感じる。遊歩道沿いの日溜りを探して早めの昼食とした。</p> <p>標高1250mまで下り、横谷温泉旅館の大きな建物に行き着くと、広場に大型バスが何台も駐車し、大勢の観光客で賑わう観光地に変わる。道標に導かれて、左側の遊歩道を下ると、豪快に流れ落ちる乙女の滝に出会う。これまでの滝はすべて渋川本流にあるが、この滝は水量の多い枝沢の滝で、趣が異なるので、調べてみると1792年に坂本養川が開いた大河原堰の用水路途中に計画的に作られた人工滝だという。この滝の見物を最後に、R299沿いのそば処遊楽庵奥の駐車場で待つマイクロバスに乗り。近くのカラマツ林内に佇む源泉掛け流しの露天風呂「石遊の湯」(ナトリウム・塩化物・炭酸水素塩泉)に立ち寄って汗を流す。帰路、原村の大型農産物直売所にも立ち寄り、地元の新鮮野菜や旬を迎えたりんご信濃三兄弟等を買って帰った。久々の好天の日曜日の上り中央高速道は、危惧した通りの交通大渋滞で、石遊の湯を2PM前に出発し5.5時間を要して本厚木に7:30PMに到着。3時間の溪谷紅葉ハイキングを楽しみ、温泉にshoppingにとゆった〜り山行を満喫した。</p>			